

## 中国語「被」受動に対応する日本語の自他動詞

塩 入 す み

### 1. はじめに

日本語教育において受動文の指導は中級レベルで行われ、その形態的特徴や、直接受身、間接受身といった下位的タイプについて学ぶのが一般的で、それらを理解するのは学習者にとってさほど難しいことではない。しかし、実際に自分で受動文を作ろうとすると、学習者の母語と日本語との間に存在する、受動文の意味・用法の違いが影響を及ぼす。

第二言語習得における母語の干渉を考察する心理学的研究は60年代からあるが、とくに中国語母語話者の日本語受動文の習得に焦点を絞った馮富榮 (1993) は、学習エラーに与える母語の影響について、受動文における助詞などの受身マーカーの習得と構文文法的な習得とを比較し、後者の方が母語干渉は大きく習得が困難であることを実証的に明らかにしている。例 (1) は受身マーカー選択、例 (2) は構文文法の調査項目の例である。

- (1) a. 隣 {から/に/で/によって} 二階を建てられた。  
b. 豆腐は大豆 {から/に/で/によって} 作られたのだ。
- (2) a. ?窓は彼に開けられた。(窗戶讓小王給打開了。)  
b. 贈物に手紙が添えられていた。( ? 礼物里边被添了一封信。)

(馮富榮1993)

それによれば、例 (1) のような助詞に関する習得より、例 (2) のような構文文法に関する習得の方が難しく母語の影響が大きいという。例 (2a) の日本語

「窓は彼に開けられた」は不自然であるが、その中国語訳「窗戶讓小王給打開了。」は自然である。例(2b)はその逆で日本語は自然であるが、その直訳である中国語は不自然である。馮富榮(1993)は構文文法の中でも例(2)のように両言語相互に直訳できない場合最もエラー率が高いことを指摘している。

両言語相互に直訳できないものにはその要因がいくつかある。例(2a)は日本語の受動文における無生物主語と受動マーカー「に」「によって」に関わる問題が中国語では存在しないこと、例(2b)は日本語の中立受動文(王亜新2016)が中国語では「被」受動文ではないということをそれぞれ示している。

本稿では、「中日対訳コーパス」を用いて、中国語の「被」受動文が、日本語では受動文に翻訳しにくい例にはどのような種類があるかを考察する。そのうちとくに自他動詞に関係する受動文の誤用例について「台灣多國語言學習者語料庫系統(台湾人日本語学習者コーパス)」の誤用例を考察し、中国語「被」受動文に対応する日本語の自他動詞/ヴォイスの選択に関わる問題を考察する。自他動詞/ヴォイスの選択に関しては、具体的にどのような有対自他動詞において選択の問題があるかなどを見る。日本語の受動文の制約に関する従来の研究を、中国語との対照や学習者の誤用の視点から再考し、新たな分析の視点を開きたいと考える。

## 2. 先行研究

### 2.1 ヴォイス・受動文全体に関わるもの

ここでは日本語と中国語の受動文を論じたものを大きく二つの立場—ヴォイス・受動文全体に関わるもの、教育・実践的立場からの日中対照研究に分け、それぞれの指摘する日中の受動文の相違点①～⑫について概観する。

まず、日中のヴォイス全体の体系の中で受動を対照したものに、大河内(1974、1983)・王亜新(1990、2016)・楊凱榮(1989)がある。さらに、日本語・中国語・韓国語の受動文の類型を考察した井上・生越・木村・鷺尾(2005)、複数の言語の受動文を扱った堀江・パルデシ(2009)、日英語を扱った高見(1995、1997、

2011) も日本語の特徴を多言語と比較するうえで参考になる。これらはその主な指摘から、以下の①～④に分けられる。

- ① **【使用頻度】** 受動文の使用頻度は日本語が中国語より多い。堀江・パルデシ (2009) によれば、受動文の使用頻度は日本語がもっとも高く、言語により受動文の使用頻度の傾向が異なる。これは中国語の「被」受動文の意味的な制約が強いこと、「被」等の受動マーカを用いない意味受動文や受動動詞文があること、そして日本語では動詞受動態が自動詞の役割を果たす場合もあること、被害性あるいは主観性による前景化<sup>1</sup> (foregrounding) が起こりやすいことなどによる。⑬とも関係する。
- ② **【結果性】** 中国語の受動文は動作主の行為が動作の対象に及んだ後に何らかの結果をもたらしたことを言及しなければならず、受動文の述語は動補構造 (VR) をプロトタイプとする (木村2000)、あるいは及物性 (transitivity) の高いものである (杉村2004)。VR構造をとる受動文には「被」受動文のほか「被」のような受動のマーカを用いない「自然受動文」がある。
- ③ **【被害・不如意・中立】** 東アジア諸語における受動文の特徴の一つは主語の被害性を表すことである (堀江・パルデシ2009)。中国語の受動文は「不如意」 (好ましくない) を表すことが多く、日本語もまた間接受動文のように被害の意味を多く表す。ただし「不如意」「被害」の解釈が異なることと、受動文を成立させる他の条件との関係から、両言語の受動文の成立には相違が生じる。また、日本語は「受影」<sup>2</sup> の意味を除き受動のみの「中立受動文」<sup>3</sup> が成立するが、中国語では書き言葉で増加しつつあるものの日本語に比べまだ少ない (王2016)。  
柴谷・中川・木村・小川 (1990) は中国語の受動文における結果と被害の意味を「影響の度合」 (degree of affectedness) という概念にまとめ、日本語の受動文の成立も影響の度合に支配されるとしている。
- ④ **【非対格動詞】** 日本語・中国語ともに非対格動詞を用いた受動文は成立しにくい、日本語・中国語いずれも迷惑や不如意の意味を伴うなど、一定の条

件下で成立する場合がある。例(3a)は高見 (2011)、例 (3b) は王亜新 (2016) それぞれの例である。

- (3) a. エアコンに故障されて、暑くてかなわなかった。 (高見2011)  
b. 不小心被他逃掉了。(うっかり彼に逃げられてしまった<sup>4</sup>。)  
(王亜新2016)

## 2.2 日中対照研究・翻訳論

中国語母語話者の日本語使用や両言語の翻訳といった教育・実践的立場から日中の受動を扱ったものに、馮富榮 (1993)・苏琦 (1988)・張志軍 (2000)・張麟声 (2001)・楊彩虹 (2003)、さらに中国語を対象としてはいるが、対照研究の見地からの指摘をしている杉村 (1992) がある。これらの研究は以下のような相違点を指摘している。

- ⑤ 【動作主の人称と有生性】苏琦 (1988) は翻訳の際、中国語では受動文の動作主が一人称でもよいが、日本語では不自然であることを指摘している。杉村はこのような中国語の受動文を、難事が達成されたことを誇る意を表すとして「自己称揚の被動文」と呼ぶ。張麟声 (2001) はこの現象を日本語における「名詞ランキング」という観点から説明している。

- (4) a. 点心让我给吃了。  
b. \*お菓子は僕に食べられた。/お菓子、僕が食べちゃったよ。  
(苏琦1988)

また、苏琦 (1988) は動作主の有生性も指摘している。中国語では有生の主語の受動文において動作主が有生でない場合も「被」受動文が可能である。

- (5) a. 他被石头绊了脚。  
b. \*彼は石につまずかれた。/彼は石につまずいた。 (苏琦1988)

- ⑥ 【情景描写・非意図性・外因性】情景描写の文では日本語は受動より自動詞を用いる方が自然であることが多いが、中国語では逆である (馮富榮1993)。この場合中国語の「被」受動文は事象の非意図性と外因性を表しており (王亜

新2016)、③の「不如意」とも関わる特徴である。

(6) 衣服被汗水湿透了。(服が汗で濡れている。) (王垂新2016)

- ⑦ 【心理動詞の他動性・動作性】心理動詞による受動文の成立しやすさについて比較すると、中国語は他動性が高く、かつ動作性も高いもののみが成立する(楊彩虹2003)が、日本語は他動性の高いものという条件だけで成立する。たとえば、日本語の「感動する」「驚く」は自動詞((7a)(8a))、「感動させる」「驚かせる」は他動詞であるが、中国語「感动(感動する)」「吓(驚く)」は自他両用動詞であり、たとえば「感动」は「感動する」「感動させる」の両方に対応し、他動詞として受動文が成立する((7b)(8b))ため、中国語と日本語で相違が生じる。

(7) a. 我很感动。(私は感動した。)

b. 我被电影的主人公感动了。

(私は映画の主人公に{\*感動された/感動させられた}。)

(8) a. 我吓了一跳。(私は驚いた。)

b. 我被太郎吓了一跳。(私は太郎に{\*驚かれた/驚かされた}。)

(楊彩虹2009)

中国語の心理動詞で動作性の低い、状態を意味するような動詞は受動文が成立しにくい。

(9) a.\*太郎被花子愛。(太郎は花子に愛されている。)

b.\*太郎被花子害怕。(太郎は花子に恐れられている。) (楊彩虹2009)

- ⑧ 【状態変化主体の他動詞<sup>5</sup>】経験者の所有物が外力(無生物)により被害を受けた場合、中国語では直接受動文(例(10a))か意味受動文(例(10b))を用いるが、日本語では経験者格の他動詞文(例(10a))か自動詞文(例(10b))で表現する(天野1987、張志軍2000)。

(10) a. 我們的家具在空襲中被燒毀了。(私たちは空襲で家財道具を焼いた。)

b. 我們的家具在空襲中燒毀了。(私たちは空襲で家財道具が焼けた。)

(天野1987、張志軍2000)

- ⑨ **【再帰動作】** 中国語の「被」受動文が再帰動作を表す場合、日本語では受動文は用いられないが、具格で原因を表す場合は受動文となる (王亜新2016)。  
(11) a. 我被雪滑倒了。(私は雪で滑った。) (李珊1993)  
b. \*私は雪に滑られた。/\*私は雪に滑った/私は雪で滑った。
- ⑩ **【目的語】** 能動文を受動文にすると、中国語では能動文の目的語 (例(12)「脚」) は受動文の主語となるが、日本語 (例(12)[足]) はそのまま目的語となる (馮富榮1993)。  
(12) 剛才、脚差一点讓門給夾了。(さっきもう少しで { ? 足がドアに挟まれる / ドアに足を挟まれる } ところだった。) (馮富榮1993)
- ⑪ **【持ち主の受動文】** 中国語では「持ち主+持つもの」が主語になる受動文と「持ち主」だけが主語になる受動文が同等に使われていることが多い (張麟声2001)。  
(13) a. 我被虫子咬了脸。(私は顔を虫に刺された。)  
b. 我的脸被虫子咬了。(??私の顔は虫に刺された。) (馮富榮1993)
- ⑫ **【無生物主語】** 日本語では無生物主語の二受動文は一定の成立条件がないと成立しない (益岡1991、天野2001) が、中国語ではそのような制限がない (馮富榮1993)。  
(14) 窗戶讓小王給打开了。  
(\*窓は王さんに開けられた。) (馮富榮1993)
- (15) あの絵が子供に引き裂かれた。 (益岡1991)
- ⑬ **【視点・主観性・前景化】** ①で挙げた日本語の受動文の使用頻度が高い理由の一つとして、受動文が前景化 (foregrounding) の機能をもつことが挙げられるが、その動機として被害性 (益岡1991、Li and Thompson1981)、主観性 (堀江・パルデシ2009) などがある。堀江・パルデシ (2009) によれば、日本語は被害の度合いが相対的に低い場合でも受動文が使用される傾向が強く、受動文に関する主観性の尺度において中国語は日本語より主観性の高いところに位置付けられている。

以上の①～⑬の日中受動文の相違点を参考にしながら、以下では実際の翻訳例と誤用例について考察する。

### 3. 「中日対訳コーパス」における「被」受動文と対応する日本語

#### 3.1 「被」受動文とそれに対応する日本語

中国語の「被」受動文とそれに対応する日本語は、日本語原文作品の中国語訳における「被」受動文に対応する原文の日本語と、中国原文作品の「被」受動文に対応する日本語訳の二種類について調べた。従来の日中対照では日本語原文作品を用いることが多かったが、ある事象を受動文で表現するか否かは言語により異なるため、対象が本来日本語である場合はそうでない場合より受動文の使用頻

表1 『挪威の森林』の「被」受動文と『ノルウェイの森』の日本語表現との対応

対応する日本語	例数 (%)	例:「被」受動文	例:対応する日本語
ラレル受動文	89(80.2%)	中断的话茬儿, 像被拧掉的什么物件似地浮在空中。	言葉のきれはしが、もぎとられたような格好で空中に浮かんでいた。
自動詞文	11(9.9%)	学生科的办公楼未被烧毁。	学生課の建物も <u>焼け落ちて</u> はいなかった。
他動詞能動文	6(5.4%)	她的牛仔布茄克和我的黄色尼龙风衣全被染成了深色。	彼女のジーンズの上着と僕の黄色いナイロンのウィンド・ブレーカーを暗い色に染めた。
		这周刚过一半, 手心被玻璃片划了一道很深的口子。	その週の半ばに僕は手のひらをガラスの先で深く切ってしまった。
語彙的受動文	2(1.8%)	星期六晚间永泽以去亲戚家为由, 每周都被允许在外面过夜。	土曜日の夜は永沢さんは親戚の家に泊るという名目で毎週外泊許可をとっているのだ。
受益表現	1(0.9%)	但我不那样, 渡边也不那样, 而觉得不被人理解也无关紧要。	でも俺はそうじゃないし、ワタナベもそうじゃない。 <u>理解してもらわなかった</u> ってかまわないと思っているのさ。
その他	2(1.8%)	熟睡当中, 恍惚觉得头颅里灌满了水, 大脑被泡得胀鼓鼓的。	眠っているあいだに頭の中が水びたしになって脳がふやけてしまったような気分だった。
合計	111		

表2 『活動変人形』の受動文と『応報』の日本語表現との対応

対応する日本語	例数 (%)	例: 「被」受動文	例: 対応する日本語
ラレル受動文	86(51.8%)	我毕竟是被毛泽东培育起来的 <u>一代</u> 中的一个……	何しろ毛沢東に <u>育てられた</u> 世代ですからね……。
自動詞文	28(16.9%)	车身上落了一些被风雨弄落下来的叶子。	車の屋根には <u>雨に舞い落ちた</u> 木の葉が散っている。
他動詞能動文	20(12.0%)	他完全可以想象他要离婚的心思如果被静宜知道了, 将给静宜带来怎样的毁灭性的打击。	離婚する気だと分かったら静宜にはそれこそ潰滅的なダメージだ。
		团长继续谈。倪藻觉得他谈得很好。为了振作精神好好听一听团长的谈话, 倪藻站起身来, 走到透明的恒温咖啡壶边, 为自己倒了一杯咖啡。赵微士示意他加糖和白色配料, <u>被他谢绝</u> 。	団長の話は続く。良い話だと思う。倪藻は一息いれてさらに傾聴しようと、立ち上がって透明な保温式コーヒポットへ歩みより、一杯ついだ。趙微士が砂糖と白いパウダーをジェスチュアで勧めてくれたが <u>遠慮した</u> 。
		没有门牙便啃不动老玉米, 毕竟有几粒玉米被啃了 <u>下来</u> 。就在这个时候轰然一声。	門歯なしではトウモロコシはかじれない。とにかく五、六粒かじり <u>とった</u> その時、轟音があがった。
語彙的受動文	9(5.4%)	现在该被判 <u>被嘲笑被指责被处刑被处以极刑</u> 的是你们!	今や、審判、嘲笑、譴責を受け、 <u>極刑に処せらるべき</u> は君たちなのだ!
受益表現	2(1.2%)	他只是在死后才 <u>被个别人想起了好处</u> 。	父は死後はじめて、 <u>個別の人にその良さを思い出してもらった</u> のだ。
その他	21(13.3%)	他因为老母病笃未能与友朋撤向大后方, <u>留在被日占领的北京</u> 了。	彼は母親危篤のため友人らと一緒に疎開できず、 <u>日本軍占領下の北京</u> に居残った。
合計	166		

度がより高いことが予測される。

表1は日本語作品『ノルウェイの森』の中国語訳『挪威的森林』において「被」受動文が原文の日本語でどのような表現に相当するかを表す。表2は中国語作品『活動変人形』の日本語訳『応報』において「被」受動文がどのように訳されているかを表す。



表1と表2より、まず対象が日本語原文である表1では、中国語原文である表2よりラレル受動文の使用頻度がより高く、また、中国語原文の表2は日本語原文の表1より、「被」受動文が自動詞文や他動詞能動文に対応する割合が高いことがわかる。

中国語の「被」受動文が日本語のラレル受動文に対応していない場合は中日の翻訳に違いが生じ、日本語学習者が日本語を産出する際にも誤用を生じやすい。違いの多くを占めているのは、自他動詞のどちらを用いるかという点である。以下では表1、2の調査の結果について、「被」受動文とそれに対応する日本語が自他動詞選択においてどのような相違があるかを考察する。

### 3.2 「被」受動文と自動詞文

今回の調査では、「被」受動文に対応する日本語の自動詞文には三種のタイプ；【有対他動詞の受動に有対自動詞が対応する】、【「結果を表す動名詞+に（と）なる」が対応する】、【語彙的に受動の意味を表す自動詞が対応する】があった。以下、順に見ていく。

#### 【有対他動詞の受動に有対自動詞が対応する】

「被」受動文に用いられている他動詞に対応する日本語の動詞が自他ペアのある有対他動詞の場合、日本語訳として有対自動詞に訳す例が見られる。なお、3.3で見るが、有対他動詞能動文に訳す場合もある。

- (16) 好像身体被分成两个、相互做追逐游戏似的。(まるで自分の体がふたつに分かれていてね、追いかけてっこをしてるみたいなそんな感じなの。)  
(ノ<sup>6</sup>)

- (17) 漆皮剥落、露出了衰颓的木缝的门、被夕阳染上了橙色。(塗りが剥げて木の割れ目の露出した老朽した門が、夕日に赤く染まっている。)(活)

- (18) 这时门被打开了、侍者端菜进来。(そこでドアが開いて料理が運ばれてきた。)  
(ノ)

例(16)は中国語の「分成两个(二つに分ける)」の受動「被分成两个(二つ

に分けられる)」に対応する日本語として自動詞「分かれる」、例(17)は中国語「染上(染める)」の受動「被…染上了…(…に…染められた)」に対応する日本語として自動詞「染まる」、そして例(18)は中国語「打开(開ける)」の受動「被打开了(開けられた)」に対応する日本語として自動詞「開く」がそれぞれ用いられている。同様の例に、「被钉在了(張り付けられて/張り付いて)」「被…从…又变成了…(～によって～から～に変えられた/切り変わった)」などの例がある。

### 【「結果を表す動名詞+に(と)なる」が対応する】

「被」受動文に用いられている動詞の日本語として「N(に)する」(採用する、釘付けにする、……)が相当する場合、その受動「N(に)される」(採用される、釘付けにされる、……)とほぼ同じ意味を表す「採用になる、釘付けになる、……」を用いる。

- (19) 然后是呈报、然后是托人情、然后是焦急等待。最后果被录用、一致认为  
是姜却之先生的书法之功。(履歴書は上申され、知人に頼みこみ、苛立  
たしい思いで返事を待ち、そして採用となった。) (活)

- (20) 倪吾诚面色苍白、象被几根钉子钉在了那里。(倪吾誠は真青になってそ  
こに釘付けになった。) (活)

「採用(に)する」「釘付けにする」「仲間はずれにする」「割り勘にする」などの動詞は「N(に)する」のN:名詞部分が動きの結果を表す動名詞であり、「Nになる」は結果の状態を表す。

### 【語彙的に受動の意味を表す自動詞が対応する】

「Nになる」のほか、語彙的に受動の意味を含むような自動詞に対応していることもある。これには多様な動詞があるが、今回の調査では「被…看中(見て気に入られる)」の日本語として「目にとまる」、「被…听到(聞かれる)」の日本語として「お耳に届く」、「被发觉了(気付かれる)」の日本語として「ばれる」のような知覚に関する動詞の例がいくつか見られた。

- (21) 由于他的长相、他的举止和他的英语、被上海的一个剧团导演看中、非要拉他去当演员不可。(容姿と立居振舞と英語力が、上海のある劇団の演

出家の目にとまり、ぜひにと懇望されたのだ。) (活)

- (22) 这正是众神下界、说什么都能被神听到、说什么都能应验的严重的时刻啊。(諸々の神が人間界に降っている折も折、何事もすぐ神様のお耳に届き願事が聞き届けられるという大切な時に、これ程の激怒と叱責をかうなんて。) (活)

- (23) 而万一被发觉了、她便从那美丽的眼睛里一个接一个地挤出眼泪、或解释或道歉、用那小鸟依人般的声音。(そしてもしばれちゃうようなことがあったら、あのきれいな目からぼろぼろ涙をこぼして言い訳するか謝まるかするのよ。) (ノ)

中国語の「被」受動文において表される、知覚に関する「不如意」は非意図性や偶然性を意味することから、他動性のスケール上は自動詞文に近づいていると考えられる。

### 3.3 「被」受動文と他動詞能動文

「被」受動文に対応する日本語の他動詞能動文のうち、特徴あるタイプとして以下の五種；【共感する人物に視点を合わせる】【自動詞的な他動詞の能動文で表す】【無生物主語の受動文に対応する】【一人称動作主の受動を他動詞能動文で表す】【有对他動詞の受動を他動詞能動文で表す】があった。

#### 【共感する人物に視点を合わせる】

受動文はしばしば文章の視点を表すために用いられる。以下の例(24)で中国語は「团长」「倪藻」「赵微土」と視点が移っているが、日本語は一貫して主人公である「倪藻」に視点が置かれている。

- (24) 团长继续谈。倪藻觉得他谈得很好。为了振作精神好好听一听团长的谈话、倪藻站起身来、走到透明的恒温咖啡壶边、为自己倒了一杯咖啡。赵微土示意他加糖和白色配料、被他谢绝。(团长の話は続く。良い話だと思う。倪藻は一息いれてさらに傾聴しようと、立ち上がって透明な保温式コーヒポットへ歩みより、一杯ついだ。趙微土が砂糖と白いパウダー

をジェスチュアで勤めてくれたが遠慮した。 (活)

中国語の「团长继续谈 (团长は話を続けた)」は日本語では「団長の話」となり、動作主ではなく主人公を取り巻く状況として翻訳されている。また、日本語の最後の文には「倪藻」の名前はないが、前文に主語として登場し、最後の文では「趙微土」をガ格で表していることから、「倪藻」が「遠慮した」の動作主であり、文全体の主語であることがわかる。加えて、「勤めてくれた」の恩恵表現の行く先も「倪藻」に視点があることを表している。

以下の例 (25) でも、中国語下線部は「姥姥 (ばあちゃま)」が主語であり、「倪萍に起こされる」という文になっているが、日本語訳は終始主人公「倪藻」に視点がある。

- (25) 倪萍就是这样、她同情每一个人、关心每一个人、为每一个人操心、为每一个人揪心。她曾经不止一次地问她亲爱的姥姥、姥姥、您还能活多久？您什么时候死？有时候姥姥犯困打盹、刚睡着就被倪萍推醒了。(倪萍はこうして誰にでも同情し、心配し、誰のためにも胸を痛み気を柔み、婆ちやまは何時まで生きられるの？何時死んじゃうの？としきりに訊ねるので、せっかくウトウトしはじめた婆ちやまを揺り起こしてしまう。) (活)

以下の例 (26) は本来日本語が原文で、下線部は他動詞能動文を用いて「雨」が一貫した主語となっているが、対応する中国語は受動を用いることにより、主語が「我们的头发 (僕らの髪)」に移っている。

- (26) 雨无声无息、执着地下个不停、我们的头发已被彻底淋透、雨滴如同泪珠一般顺颊而下、… (雨は音もなく執拗に降りつづき、それは僕らの髪をぐっしょりと濡らし、涙のように頬をつたって落ち…。) (ノ)

#### 【状態変化主体の他動詞能動文で表す】

2.2 で挙げた⑧【状態変化主体の他動詞】の能動文には以下の例がある。

- (27) 这周刚过一半、手心被玻璃片划了一道很深的口子。 (その週の半ばに僕は手のひらをガラスの先で深く切ってしまった。) (ノ)

- (28) 真奇怪、小时候一些发生在裹脚以前和以后的事她都记得、唯独不记得她的脚是怎样被裹起来的。(不思議とその前後の出来事はよく覚えているのに、どのように足を縛ったかは記憶にない。) (活)

例 (27) (28) 下線部の中国語を日本語に直訳するとそれぞれ、「\*手のひらがガラス片に深く切られた」、「?足がどのように縛られたか」であるが、無生物主語で動作主を「に」格で表す「二受動文」には制限があることや、この種の日本語の文の成立条件には、天野 (1995) で論じられているように所有の意味が含まれていることから、所有の受身に近い意味・用法となっているものと考えられる。

### 【無生物主語の受動文に対応する】

2. 2 ⑫【無生物主語】で述べたように、日本語では無生物主語の二受動文は一定の成立条件がないと成立しない (益岡1991、天野2001) ことから、「被」受動文の翻訳として日本語では他動詞能動文となっている例がある。

- (29) 没有门牙便啃不动老玉米、毕竟有几粒玉米被啃了下来。就在这个时候轰然一声。(門歯なしではトウモロコシはかじれない。とにかく五、六粒かじりとったその時、轟音があがった。) (活)

例 (29) 下線部の中国語「有几粒玉米被啃了下来 (何粒かのトウモロコシがかじりとられた)」は日本語訳では他動詞能動文「五、六粒かじりとった」となっている。以下の例も同様である。

- (30) “却之” 练习写下的一张张小楷、被两个孩子拿去欣赏品味。(「却之」が練習に書いた字を姉弟は手にとって鑑賞した。) (活)

例 (30) の中国語を直訳すると「「却之」が練習に書いた字は、二人の子どもに持って行って鑑賞された。」となるが、やはり無生物主語の二受動文として座りが悪く、他動詞能動文で訳されている。

### 【一人称動作主の受動を他動詞能動文で表す】

⑤【動作主体の人称】で述べたように、日本語では一人称動作主の受動に制限がある。以下の例は日本語が原文であるので本来他動詞能動文であるが、中国語訳は一人称動作主の受動文となっており、これは直訳すると「\*一人の女の

子は僕にホテルのベッドに連れていかれ」となり不自然な文となる。

(31) 个女孩被我领到旅馆床上、要给她脱衣服时、她手蹬脚刨、硬是不准。

(一人の女の子は僕がホテルのベッドにつれこんで服を脱がせようとすると暴れて抵抗したが…)

(ノ)

【有対他動詞の受動を他動詞能動文で表す】

「被」受動文に用いられている他動詞に対応する日本語の動詞が、自他ペアのある有対他動詞の場合、日本語訳として有対他動詞能動文にする場合もある。以下の例 (32) で下線部の中国語は日本語に直訳すると「すべてがはじめじめに濡らされる」であるが、実際の例は他動詞能動文である。この場合自動詞を用いて「何もかもまんべんなく濡れていた。」としてもほぼ同じ意味を表すことができる。

(32) 这是梅雨时节特有的雨、没有一丝风、雨帘垂直落下、一切都被淋得湿漉漉的。(梅雨どき特有の、風を伴わないまっすぐな雨で、それは何もかもまんべんなく濡らしていた。)

(ノ)

次の例 (33) も同様で、中国語は日本語に直訳すると「彼女のジーンズの上着と僕の黄色いナイロンのウィンド・ブレーカーは暗い色に染められた」であるが、実際の例はやはり他動詞能動文である。そして自動詞を用いて「……ウィンド・ブレーカーが暗い色に染まった」としてもほぼ同じ意味を表すことができる。

(33) 雨无声无息、执着地下个不停、我们的头发已被彻底淋透、雨滴如同泪珠一般顺颊而下、她的牛仔布茄克和我的黄色尼龙风衣全被染成了深色。

(雨は音もなく執拗に降りつづき、それは僕らの髪をぐっしょりと濡らし、涙のように頬をつたって落ち、彼女のジーンズの上着と僕の黄色いナイロンのウィンド・ブレーカーを暗い色に染めた。)

(ノ)

以上、ここまで中国語の「被」受動文に日本語の自動詞文・他動詞能動文が対応する例について、いくつかのタイプを挙げて考察した。

## 4. 日本語学習者の誤用例に見る傾向

### 4.1 受動文の誤用傾向

次に、「台灣多國語言學習者語料庫系統」を用いて中国語母語話者の日本語作文の用例から、実際の受動文の誤用例を考察する。「台灣多國語言學習者語料庫系統」は台湾の13の高等教育機関で日本語を学ぶ学習者の作文1,563編（約71万字）が収録された学習者コーパスで、2003年から2009年にかけて集められたものである（黄淑妙2014）。コーパスには初級から上級までの作文があり、作文のテーマも「自己紹介」から「社会問題」まで様々であるが、おおよそ初級から中級レベルの作文が中心である。

表3 「台灣多國語言學習者語料庫系統」における受動文「られ」の誤用

適切な例	211 (55.1%)
活用に関わるもの	49 (12.8%)
動詞の自他/ヴォイスの選択に関わるもの	43 (11.2%)
動詞の選択に関わるもの	42 (11.0%)
助詞に関わるもの	20 (5.2%)
その他	18 (4.7%)
合計	383例

今回はレポート<sup>7</sup>を除く作文から、383例の「られ<sup>8</sup>」の形をとる受動文についてその誤用の種類を表3のように分類した。

それぞれの誤用は以下のような例である。

#### 【活用に関わるもの】

誤用の中で最も多く、五段動詞や漢語動詞にも「られ」を用いた「風に吹かれて」「みんなに笑られた」「禁止られます」「キャッチしられます」のような例が多い。

#### 【動詞の自他/ヴォイスの選択に関わるもの】

動詞の自他の選択、能動・受動・使役などヴォイスの選択に関わるもので、馮富榮（1993）の指摘する「構文文法のエラー」に相当すると考えられる。

(34) ごく短い話だったが、先生のやさしさと私に対する関心さが受話器から伝えられた。(NTU-A-3-119-1-T2)

(35) 大学生はもう18才です。自分は自立心があります。でも、今の大学、ほとんど出席記録を取らなければならない。(WTUC-B-4-381-1-T4)

(36) 以前、母はいつも私に助けてくれた。目覚まし時計のように「おきろ！」と僕に呼んだり、いろんな美味しい料理を使って僕に食べられたり、僕の部屋にそうじしてくれた。(STUT-B-3-230-1-T1)

例(34)は自動詞「伝わる」、例(35)は他動詞能動態「取るなければならない」、例(36)は使役「食べさせたり」がそれぞれ適切であり、ヴォイスに関する選択に関わる誤用例である。

#### 【動詞の選択に関わるもの】

動詞の選択には様々な要因があり、「英雄から奴隷の身におとしいられた（おとしめられた）」のような語形上のミス、「子どもと犬は湿られた（びしょ濡れになった）」のような中国語からの翻訳によるもの、「好奇心が起られ（呼び起こされ）」のような日本語の動詞間の選択によると思われるものなどがある。以下ではこれらのうち動詞の自他/ヴォイスの選択に関わるものを考察する。

#### 4.2 動詞の自他/ヴォイスの選択

表3「動詞の自他/ヴォイスの選択に関わるもの」43例の内訳を表4に示す。



表4から、学習者は受動文を作る際に日本語の他動詞も自動詞もいずれも選択するが、有対自他動詞「分ける/分かれる」「落とす/落ちる」の自他の選択における誤用が多く見られるほか、自他の区別が不明確なまま自動詞を選択したと見られる例が多くあった。また、ヴォイスの選択に関しては無生物主語・無生物動作主の場合に受動文にするか否か、名詞修飾の際に受動文を選ぶかといった問題に関わる誤用も含まれていた。

表4 自他動詞/ヴォイスの選択に関するもの

誤用 → 訂正	誤用/訂正
他動詞受動文→自動詞	分けられる/分かれる, 埋められる/埋まる, 伝えられる/伝わる, 見つけられる/見つかる
他動詞受動文→他動詞能動文	触られる/触る, 連れられる/連れる, 乗せられる/乗せる, おこらせられる/おこらせる
自動詞受動文→使役受動文	怒られる/怒らされる
自動詞受動文→使役文	怒られる/怒らせる
自動詞受動文→他動詞能動文	乗られさせる/乗せる
自動詞受動文→他動詞受動文	止まられる/止められる, 入られる/入れられる
自動詞受動文→自動詞文	倒れられる/倒れる, ぶつかられる/ぶつかる, 凍られる/凍る, 落ちられる/落ちる, 困られる/困る, 当たられる/当たる, 濡られる/濡れる
自動詞受動文→他動詞受動文	落ちられる/落とされる, ぶつかられる/ぶつけられる, 起きられる/起こされる, 落ちられる/落とされる,
〈その他〉 自動詞文→自動詞文 名詞修飾内の受動/能動 無生物動作主 無生物主語	ゆられている/ゆれている 卵で作られる料理/卵で作った料理 徴兵の通知に来られる/通知が来る 着物は昔から日本人に着られます/日本人は…来ています 今の大学, ほとんど出席記録を取られなければならない/取らなければならない

### 【有対自他動詞の選択】

まず、有対自他動詞の誤用について見ると、3.2及び3.3で見たように、「被」受動文に用いられている動詞に対応する日本語の動詞が有対他動詞の場合、その日本語訳として有対他動詞受動文（「染められる」）、有対自動詞文（「染まる」）、有対他動詞能動文（「染める」）の三種から選択することになる。この三種の意味が近似するのは無生物主語の場合である。日本語では有生物主語の場合、「田中

は先輩に車を降ろされた/田中が車を降りた/先輩が田中を降ろした。」の受動・他動・自動の意味は明確に分かれている。一方、無生物主語の場合、非有生物による具格と共に起する他動詞受動文、自動詞文、他動詞能動文が近似する意味を表すことがある。

- (37) a. ?風でドアがあけられた/風でドアがあいた/風がドアをあけた。
- b. ?風で服が乾かされた/風で服が乾いた/風が服を乾かした。
- c. \*汗で髪が濡らされた/汗で髪が濡れた/汗が髪を濡らした。
- d. 洪水で家が流された/洪水で家が流れた/?洪水が家を流した。
- e. 事故で車が止められた/??事故で車が止まった/?事故が車を止めた。

例(37)のように、三種の文の近似のし方は動詞により違いがあるが、誤用を生みやすいのは「被」受動文に対応する日本語が他動詞受動文の場合であろう。日本語において無生物主語の受動文の成立には、動作主の有生性、ヴォイスの選択、自他動詞の選択という三つの要件が関わってくることになる。これに対し、中国語の「被」受動文は動作主について有生性の区別はなく、道具や原因を動作主にすることができる(王亜新2016)ため、不適切な受動文を算出することが予測される。学習者コーパスでも有対他動詞受動文で自動詞の方が適切な例が多く見られた。

- (38) 高校を卒業したの夏休みは母と妹とおばさんと一緒に旅行しました。それはおばさんの同僚とグループ旅行です。「峇里島」へ行くの四泊五日の旅行です。それは私が初めて海外に行ったことがありましたからとても嬉しいです。そのメインイベントは二部分に別けられていました。

(NTU-A-3-119-1-T2)

- (39) ごく短い話だったが、先生のやさしさと私に対する関心さが受話器から伝えられた。

(NTU-A-3-119-1-T2)

例(38)は「分かれていた」、例(39)は「伝わった」がそれぞれ適切である。例(38)は中国語で他動詞受動文「被分成两个部分(二つの部分に分けられる)」であり母語干渉と考えられるが、例(39)は中国語でも自動詞「传到、传来」等

に相当するので、日本語の「伝わる/伝える」という自他動詞に関する知識が不足していたものと考えられる。

一方、受動文に自動詞を用いている例も見られる。

- (40) 今回の地震は台湾の中部でもとりわけ深刻です。みんなが寝ているところはとんでもない自本（自分<sup>9</sup>）の家がたおれられてしまった。

(STUT-B-3-38-6-T2)

- (41) 犬も大変びっくりした。一瞬凍られたように動くことができなかった。

(NTU-A-2-117-2-T8)

例(40) 下線部に相当する中国語は「被弄倒了（倒された）」であるが、自動詞「倒れる」を受動にしたため不適切となった例である。対応する日本語は他動詞を用いて「倒されてしまった」あるいは自動詞を用いて「倒れてしまった」となる。中国語では結果を伴うような強い影響をもつ動きのみが受動を構成する（木村1992、2000、2012、杉村2004、井上他2005）ため、「被」を用いた受動文に最も適切な述語形式は「VR（動詞＋結果補語）」構造である。「被弄倒了」では結果補語として「倒」を用いているため、これを「倒れる」と訳したと考えられる。

例(41) 下線部の中国語は「被冻住了（凍らされた）」であるが、「倒す/倒れる」と「凍らす/凍る」が異なるのは他動詞受動文の用いられ方で、「倒される」に比べ「凍らされる」は非常に用例が少なく、ほぼ自動詞を用いる。これは「凍る」という動きが「倒れる」という動きより比較的自発的・内発的な動きとして捉えられるためと考えられる。

「被」受動文に対応する日本語として他動詞受動文、自動詞文、他動詞能動文のいずれかを選択する際は、個々の動詞による用法の違いが問題になってくる。

### 【無生物主語・無生物動作主に関するヴォイスの選択】

ヴォイスの選択に関しては、日本語では無生物主語（例(42)）・無生物動作主（例(43)）の場合に受動文が成立しにくい場合がある例が見られた。

- (42) ? 日本の伝統服は昔から今にかけて、日本人に着られます。「きもの」

という伝統服です。 (MCU-A-2-547-1-T8)

- (43) ?台湾の男性として、大学を卒業してから、すぐ徴兵の通知に来られ、  
面倒にかけられるものだ。 (NTU-A-3-127-3-T7)

無生物主語の二受動文については、益岡 (1987)、天野 (2001)、栗原 (2005) などによる考察があるが、例 (42) に関しては「日本人に着られています」としても「日本人に愛されている」などと比べるとやや不自然である。益岡 (1991) の属性叙述受動文に関する定義：「特定の時空間における事象の生起・存在を描写してはいない」を参考にすると、「着る」は「愛す」より特定の時空間における事象の生起・存在を描写しやすいと言えるだろう。

また、例 (43) の「手紙が来る」のような「来る」は意志性がなく非対格動詞的である。中国語でも日本語でも自動詞による受動文は成立するが、動作者の意志を伴う非能格動詞が多く用いられ、非対格動詞は受動文に用いられにくい<sup>10</sup> (王亜新2016)。日本語の自動詞受動文は動詞句あるいは動詞文まで含んだ意味として意志性の有無、一方、中国語の自動詞受動文は「受影者への影響の有無」 (王亜新2016) が、それぞれ成立条件であると考えられる。

## 5. おわりに

本稿では、「中日対訳コーパス」を用いて、中国語の「被」受動文が、日本語では受動文に翻訳されない例にはどのような種類があるかを概観した。そのうち自他動詞に関する受動文の誤用例について「台湾多國語言學習者語料庫系統 (台湾人日本語学習者コーパス)」の実際の誤用例を考察し、中国語「被」受動文に対応する日本語の自他動詞/ヴォイスの選択に関わる問題を考察した。自他動詞/ヴォイスの選択に関しては、具体的にどのような有対自他動詞において選択の問題があるか、日中の受動文における無生物主語・無生物動作主に関する制約には動詞の意志性が関わることなどを見た。ここで考察した問題は、日本語の受動文の制約に関する従来の研究を、対照研究や第二言語習得の観点から再考するものであり、受動文研究に新たな視点を示すものと思われる。今後の継続的な課

題としたい。

## 注

1. 「前景」(foreground)は認知言語学における焦点(focus)部分を指すのに対し、焦点が当たらず前提として認識される部分は「背景」(background)という。英語のit分裂構文の主節と従節の例(中右1994)、日本語の受動文の例(益岡1982)など。
2. 「受影性」(affectivity)は松下(1930)井上(1976)Kuroda(1979)等により議論され、益岡(1982)は受影性を主語名詞句が出来事の結果として被った心理的・物理的影響を指すとする。
3. 益岡(2000)の「属性叙述受動文」と「降格受動文」に相当する。「属性叙述」は高見(1995, 1997)の「特徴づけ」とほぼ対応している。
4. 例文(b)の日本語訳は塩入による。
5. 天野(1987)の用語である。
6. (ノ)は『ノルウェイの森』とその翻訳、(活)は『活動変人形』とその翻訳からの用例を表す。
7. レポートは引用部分が多く学習者による産出文が少ないため調査の対象から外した。
8. 「れ」の形をとるものは調査対象数が多くなるため今回の分析は「られ」に限っている。
9. 「自本」は「自分」の誤り。
10. 例外的な事例については高見(2011)が論じている。

## 参考文献

- 天野みどり(1987)「状態変化主体の他動詞文」『国語学』151, pp.1-14.
- 天野みどり(2001)「無生物主語の二受動文」『国語学』52-2, pp.1-15.
- 井上優(2004)「日本語と中国語の『変化』の表現」『次世代の言語研究Ⅲ』筑波大学現代言語学研究会, pp.147-156.
- 井上優・生越直樹・木村英樹・鷺尾龍一(2005)「日本語・中国語・韓国語から見た受動文の類型」『日本言語学会第131回大会予稿集』pp.54-59.
- 大河内康憲(1974)「被動が成立する基礎—日本語などとの関連で—」『中国語学』220, pp.1-

12.

大河内康憲 (1983) 「日・中語の被動表現」『日本語学』2-4, pp.31-38.

生越直樹・木村英樹・鷲尾龍一編著 (2008) 『ヴォイスの対照研究—東アジア諸語からの視点—』  
くろしお出版

王亜新 (1990) 「日本語と中国語のヴォイス—受身表現の場合—」『国文学解釈と鑑賞』55-1,  
pp.129-135.

王亜新 (2016) 「日本語と中国語の受動文に見られる類似点と相違点」『東洋大学人間科学総合  
研究所紀要』18, pp.41-63.

木村英樹 (1992) 「BEI受身文の意味と構造」『中国語』389, pp.10-15.

木村英樹 (2000) 「中国語ヴォイスの構造化とカテゴリ化」『中国語学』247, pp.9-39.

木村英樹 (2012) 『中国語文法の意味とかたち—「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究—』  
白帝社.

栗原由香 (2005) 「定位のための受身表現—非情物主語の二受身文の一類型—」『日本語文法』  
5-2, 日本語文法学会, pp.180-195.

黄淑妙 (2014) 「『台湾人日本語学習者コーパス』(CTLJ) における使用語彙の分析—自然コー  
パスとの比較を通して—」『語文與國際研究』11, 文藻外語大學, pp.71-96.

柴谷方良・中川正之・木村英樹・小川暁夫 (1990) 「間接受身の意味とその発達」言語学会第  
100回大会研究発表要旨『言語研究』98, pp.144-146.

杉村博文 (1992) 「遭遇と達成—中国語被動文の感情の色彩—」大河内康憲編『日本語と中国語  
の対照研究論文集 (下)』pp.45-62, くろしお出版.

杉村博文 (2004) 「中国語の受動概念」『次世代の言語研究Ⅲ』筑波大学現代言語学研究会,  
pp.29-43.

高見健一 (1995) 『機能的構文論による日英語比較』(柴谷方良ほか編・日英語対照研究シリー  
ズ4) くろしお出版.

高見健一 (1997) 『機能的統語論』(日英語対照による英語学習シリーズ4) くろしお出版.

高見健一 (2011) 『受身と使役—その意味規則を探る—』開拓社

張志軍 (2000) 「受動文から見る日本語と中国語の違同」『横浜商大論集』33-2, pp.160-180.

- 張麟声 (2001) 『日本語教育のための誤用分析—中国語話者の母語干渉20例—』 スリーエーネットワーク.
- 中右実 (1994) 『認知意味論の原理』 大修館書店.
- 早津恵美子 (1995) 「有対他動詞と無対他動詞の違いについて—意味的な特徴を中心に—」 『動詞の自他』 須賀一好・早津恵美子, ひつじ書房, pp.179-197.
- 馮富榮 (1993) 「日本語受動文の学習過程における母語—中国語の影響について」 『教育心理学研究』 41-4, pp.388-398.
- 堀江薫, プラシャント・バルデシ (2009) 『言語のタイポロジー—認知類型論のアプローチ—講座: 認知言語学のフロンティア 第5巻』 山梨正明編, 研究社.
- 益岡隆志 (1982) 「日本語受動文の意味分析」 『言語研究』 82, pp.48-64.
- 益岡隆志 (1987) 「受動表現の意味分析」 『命題の文法』 くろしお出版, pp. 179-196.
- 益岡隆志 (1991) 「受動表現と主観性」 『日本語のヴォイスと他動性』 くろしお出版, pp.105-121.
- 楊凱榮 (1989) 「文法の対照研究—中国語と日本語—」 『講座日本語と日本語教育 第5巻 日本語の文法・文体 (下)』 明治書院.
- 楊彩虹 (2009) 「中国語受身文の成立条件—日本語との対照研究を通して—」 *NEAR conference proceedings working papers*, NEAR-2009-10, pp.1-23.
- 李 珊 (1993) 『現代汉语被字句研究』 北京大学出版社.
- 苏 琦 (1988) 「试论被动句汉译日的規律」 『日语学习与研究』 5, pp.33-35.
- Li, Charles N. and Thompson, Sandra A.(1981) *Mandarin Chinese: a Functional Reference Grammar*. Berkeley: University of California Press.